

# 平成三十年神田古本まつり（坤）

土屋 博

十六「太陽 大正十二年六月號」

（博文館、正價金六拾錢、三五二頁）古書價格五百圓也。特集は「日本山水大觀」。博文館創業三十六周年記念増刊號なり。大町桂月は「北海道山水の大觀」及び「鳴子溫泉」を執筆す。織り込みの「日本名勝地圖」（六山義平筆）は極めて貴重なり。

十七「作例軌範 文章寶鑑」大町桂月編著

（内外出版協会、大正十五年三版、定價金四圓五拾錢、一一七三頁）古書價格二百十六圓也。初版は大正十四年。復刻版は古本市場によく見るも原本は珍し。

十八「向上の人生」馬場峯月編著、陸軍大將一戸兵衛閣下謹書

（帝國講學會、昭和四年刊、定價金四圓、九六二頁）古書價格二百十六圓也。第一編自己に對する人の道の第一章品性の訓言は、大町桂月「人格の修養」、新渡戸稲造「勇氣の修養」、福澤諭吉「名譽」、三宅雪嶺「富貴以外の領域」など。

十九「類題謹解 明治天皇御製」子爵三室戸敬光編

（忠君愛國山水會、昭和五年再版、正價壹圓五十錢、本文二九四頁）古書價格二百圓也。函入。初版は大正十四年。目次は新年、春夏秋冬、雜、附録に明治御年表あり。明治四十五年作の歌（寶算六十一歳、滿五十九歳の作品）、「ひもとかむ暇なき日のおほきかな讀むべき書は數多あれども」は小生の最も共感したるものなり。

廿「註解 日本外史」五冊

（國民思想善導普及會、昭和八年刊、非賣品）古書價格五百圓也。和綴。茶色。卷十二より卷二十二まで日本外史全體の後半部分に相當す。新書サイズなれば携帯に極めて便利。狀態も奇跡的によく、頗る美しき装丁にて、愛讀書となること必定なり。

廿一「註解 日本外史」全十冊

（萬朝報社、昭和十年刊、定價十冊金五圓）古書價格三千圓也。帙入。和綴。綠色。廿の存在を知り慌てて別途購入に走ったり。全卷揃ひたる氣分は格別なり。

廿二「キング新年號附録 東西名詩集（西條八十）吟詠漢詩集（鹽谷溫）」

（大日本雄辯會講談社、昭和十一年一月刊、本誌附録とも定價七十錢、一四〇頁）古書價格二百拾六圓也。購入は三度目なり。

廿三「日本名詩抄」鈴木香雨著

（國民書學院、昭和十一年刊、非賣品、二二頁）古書價格二百圓也。和綴。著者は書家。一八九〇年生れ、府立一中卒、一九五一年文部省検定教科書筆者、一九七九年歿。乃木希典「金州城下の作」、伊藤博文「偶成」、吉田松陰「舟由良港に至る」より大槻盤溪「太田道灌」まで、香雨の筆による。

廿四「受験研究 蒙求新釋」弘前高等學校教授小和田武紀著

（有精堂、昭和十二年五版、定價金壹圓廿錢、三六四頁）古書價格三百圓也。初版は昭和十年。冒頭より諸葛孔明、太公望らの讀み切り短編數多く配置せられ、初心者に向け教科書として適當なるはむべなる哉。

廿五「維新志士 勤王詩歌詳解」立命館大學教授小泉琴三著

(立命館出版、昭和十四年三十版、三三二頁) 古書價格二百圓也。序より、「京都東山靈山官祭招魂社には、明治維新勤王志士一千五十五柱の靈が祭られてゐる。そのうちの五百餘名は詩歌の作を残してゐるのである。」と。陸軍省推薦。

廿六「世界に冠たる 日本精神全講」文學士飯田徳治著

(教文社、昭和十八年廿四版、定價金參圓十特別行爲稅拾五錢、九三〇頁) 古書價格二百拾六圓也。日本精神主要文獻解說には以下の二十冊掲げらる。古事記、日本書紀、祝詞、萬葉集、神皇正統記、大日本史、讀史餘論、日本外史、中朝事實、保建大記(栗山潜鋒)、中興鏡言(三宅觀瀾)、柳子新論(山縣大貳)、今書(蒲生君平)、國意考(賀茂真淵)、直毘靈(なをびみたま、本居宣長)、玉かつま、古道大意(平田篤胤)、伊吹於呂志(同)。

廿七「廣瀬淡窗旭莊書翰集」

(弘文堂、昭和十八年刊、賣價金拾貳圓四拾八錢、七四一頁) 古書價格千圓也。當時としては値段の高き本。編者は長壽吉先生(淡窗の弟子長三洲の子息)及び小野精一先生(郷土史家)。題字は九十三歳清浦奎吾伯爵。文語百撰にある「謙吉へ申聞候事」は残念乍ら見當らず。

廿八「中國詩選」鹽谷溫著

(弘道館、昭和二十八年三版、定價三八〇圓、本文六一五頁) 古書價格六百圓也。函入。購入は二度目。初版は昭和九年、初版時の名称は「興國詩選漢土篇」なりき。

廿九「和漢の散歩」長沼弘毅著

(自由國民社、昭和三十一年刊、定價二五〇圓、本文二九〇頁) 古書價格五百圓也。著者は昭和二十四年大藏次官退官。まえがきより、「昔の歌人や俳人は今では想像もつかぬくらいに漢學の知識を豊かに持つてゐたものと見え、それが知らず識らずのうちに彼らの作品に色濃く反映してゐる。・・・彼が門人に與へた書には『遙かに定家の骨を探り西行の筋を辿り樂天が腸を洗ひ杜甫が方寸に入る』とあり、芭蕉が和漢の先輩の業績に對していかに敬意を拂ひいかに勉強してゐたかが分る」と。目次は「風樓に滿つ」、「月天心」など。

三十「新釋和漢名詩選」内田泉之助著

(明治書院、昭和三十七年四版、定價金四百五拾圓、四四六頁) 古書價格五百圓也。初版は昭和三十三年。本邦篇、漢土篇、合せて三百三十五篇を解説す。著者は明治二十五年生れ、大正十五年東京帝國大學支那文學科卒、二松學舎大學教授。

三十一「漢文の訓讀によりて傳へられたる語法」山田孝雄著

(宝文館、昭和五十四年復刻版第二版、三八〇頁) 古書價格三百圓也。初版は昭和十年。自序によらば、大正十四年東北帝國大學の特殊講義「現代語法の中漢籍の讀方によりて傳へられたる要素の考察」をもととする由。たとへば、陶淵明の歸去來辭の「歸去來」三文字を「カヘンナンイザ」と讀むことに就いての考察など。

三十二「日本人物在世年表」上園政雄編

(吉川弘文館、昭和五十九年刊、定價二千九百圓、本文四五七頁) 古書價格二百圓也。たとへば、明治元年の箇所を見るに、横井小楠六十歳、勝海舟四十六歳、岩倉具視四十四歳、西郷隆盛四十二歳、大久保利通三十九歳、大隈重信三十一歳、澁澤榮一二十九歳、伊藤博文二十八歳、東郷平八郎二十二歳、乃木希典二十歳、徳富蘇峰六歳といった具合なり。

三十三「百人一詩」遠藤鎮雄著

（錦正社、平成八年刊、貳千貳百圓、二三〇頁）新古書價格三百圓也。すずらん通りの錦正社ワゴンにて購入す。昭和十九年一月刊行の土屋竹雨著「日本百人一詩」にて選定せられし詩を遠藤氏なりに新たに解説し直したるもの。菅原道真「九月十日」より、乃木希典「金州城下作」まで。書道界の重鎮なりし田中眞治氏の白文の書の寫眞附き。

（平成三十年十一月十四日受附）